

まいぶんfan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref, Japan



前方部石室出土の琴柱形石製品

特集 寺戸大塚古墳—最新の調査研究—



竹の径からみた寺戸大塚後円部の現況（北から）



後円部と前方部の境界付近の現況（南から）

後円部の墳丘構築状況 1（中段～上段）

第 14 次調査（令和 5 年度）

寺戸大塚古墳の発掘は、大正 12（1923）年の前方部石室（南半部）の発見にはじまります。その後、昭和 17（1942）年に前方部石室北半部、昭和 42（1967）・43（1968）年に後円部石室・墳丘の調査を経て、平成 10（1998）年以降は、史跡指定に向けた範囲確認調査が向日市及び京都市でおこなわれました。

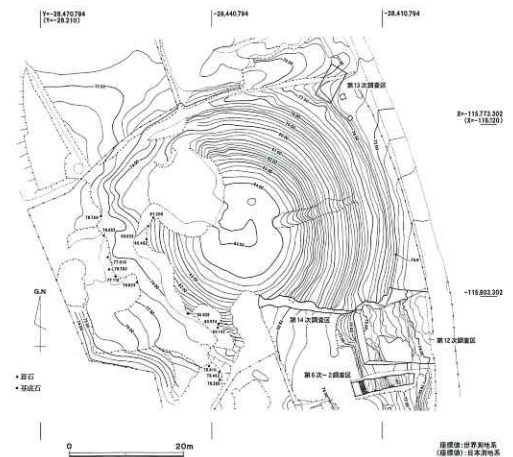
向日市では令和 3（2021）年から、範囲確認調査を再開し、第 12 次として東くびれ部の調査に着手しています。このあたりは、前方部側が筍栽培の開墾によって墳丘の損壊を受け、後円部と分断する崖が生じていました。調査の結果、東くびれ部については筍の土入れ作業で完全に削平され、段丘を削り出した墳丘および葺石・礫敷・埴輪列などの外表施設は、まったく残されていませんでした。

令和 5（2023）年には、後円部側で露出していた崖面を保護するために第 14 次調査がおこなわれています。第 12 次の発掘区を西側へ広げて、後円部と前方部が接続する部分で墳丘の遺存状態を確認しました。露出する崖面を丁寧に精査していくと、三段に築かれた墳丘斜面の形状や葺石の施工状況、埴輪列の位置、盛土の構築状況などが見えてきました。

墳丘の下半部は丘陵地形を削ってつくられています。盛土は第二段斜面の途中からはじまり、その境界には平坦な面が設けられていました。後円部の周縁に円環状の土手を築き、内側に土や礫を充填して平坦な面をつくり、こうした積み上げを 5 回ほど重ねていました。

墳頂までの 50 cm 分は、精良な土を積んで、仕上げるなど、墳丘盛土の構築工程がはっきりとわかりました。

前期古墳の墳丘構築の方法は、大和・柳本古墳群の中山大塚古墳や黒塚古墳で詳細が判明しており、ヤマト王権中枢部の大型古墳と寺戸大塚古墳は共通する造営技術が確認されます。



12 次・14 次調査の位置（南から）



後円部上段・中段の墳丘断面（南から）

後円部の墳丘構築状況 2（下段）

第 12 次調査（令和 3 年度）

後円部の第一段斜面にあたる箇所では、墳丘裾の一部をひろげて葺石の遺存状況が確認されています。墳丘は後円部側からくびれ部に向かう途中で削られています。葺石は良好に残され、基底石は 14 石分を検出しています。

使用する石材はチャートと砂岩が主体で、南端の 3 石は長さ 40 cm の長大な礫を横に据え置き、くびれ部付近の設置傾向を示している可能性があります。一方、北端の 5 石は縦にならべており、葺石の施工にあたった工人の違いがあらわれているのかもしれませんが。

葺石背後の裏込めには拳大の礫を詰め、段丘を削り出した斜面には黄褐色粘質土の置土が施されています。

基底平坦面では段丘面の上に約 0.5m の厚みで造成盛土が施されていました。

北高南低の馬の背状の尾根に古墳は立地しており、墳裾を水平に築くためには大規模な盛土造成が必要であったと考えられます。

寺戸大塚古墳の保存と活用に向けて、造営方法に関わる基本情報の収集が続けられています。



後円部南端墳丘裾の葺石と転落石（東から）



後円部南端墳丘裾の構築状況（南から）



後円部下段の墳丘断面（南から）

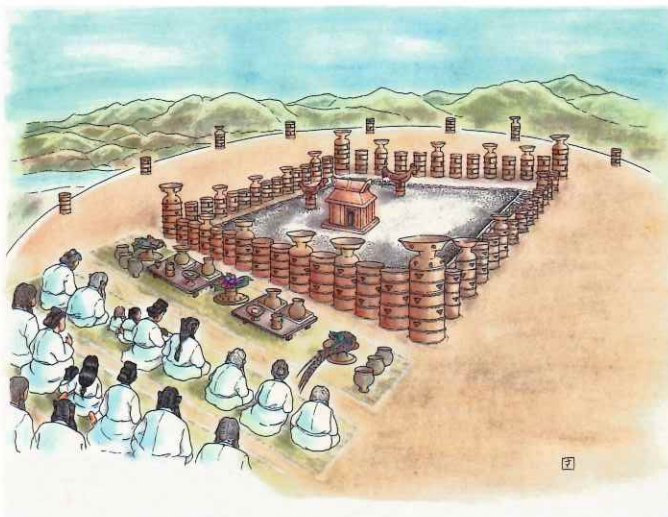
財団設立 35 周年記念事業 『古墳発掘 100 年 寺戸大塚』 展の開催

財団設立 35 周年を迎えた令和 5（2023）年は、寺戸大塚古墳の発掘開始から 100 年、後円部の調査から 55 年、センターが調査に携わり 25 年が経過する節目にあたります。センターではその後、元稻荷古墳や五塚原古墳の調査をおこない、史跡指定と保存活用に向けてそれぞれの古墳の基本情報を集約してきました。今回の設立記念事業では、向日丘陵古墳群の調査研究成果を軸に展示会と関連図書の刊行が柱となります。また、寺戸大塚古墳の後円部でおこなわれた調査の成果を中心に、近隣の古墳や集落の出土遺物を参考に大和王権との関係や古墳時代の乙訓地域の特質にせまろうと企画しました。

展示会では、京都大学考古学研究室・京都大学総合博物館との共同主催により、両機関が所蔵する寺戸大塚古墳の主要な副葬品を一堂に会し、関連遺物の参考展示や復元画の作成、記念講演会の開催など広く一般に向けて本墳の魅力を紹介しています。副葬品のうち、鏡と合子形土器については、大手前大学史学研究所の協力を得て三次元レーザー計測をおこない、鮮明な立体画像を作成して副葬品の特徴を最大限に引き出しています。

展示図録は、寺戸大塚古墳の調査成果を網羅し、その魅力を紹介するガイドブックとして作成しました。本書が地域史や古墳時代史を究明するための基本文献として、広く活用されることを期待しています。

図録は A4 版 48 頁、カラー印刷で 500 冊を作成し、定価 500 円で販売。



復元画の作成（後円部墳頂の祭祀：田中さとこ氏作画）



展示会図録の刊行（令和 5 年 9 月刊行）



展示会開催状況（会場：向日市文化資料館）



記念講演会の開催（講師：和田晴吾氏・廣瀬覚氏）

編集・発行

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター

〒617-0004 京都府向日市鶏冠井町上古23

TEL：075-931-3841 FAX：075-931-4004

<http://www.mukoumaibun.or.jp>

令和 6（2024）年 3 月 22 日

20005